



学校を開き、生徒の未来を拓く

□ 修学旅行と校外研修

今月19日から2泊3日で3年生が修学旅行で関西方面へ、27日には2年生が校外研修で神戸へ行ってきました。思い返せば岐阜県では、8月23日に5,116の方が新型コロナウイルス感染症に罹患しました。この影響でスポーツフェスティバルや授業参観を見合わせましたが、修学旅行や校外研修だけはなんとか行かせてあげたいと考えていましたので、無事に実施することができて本当にうれしく思っています。これも、生徒はもちろんですが、保護者の皆様のご理解とご協力があったことだと考えています。ありがとうございます。

さて、日本で最初の修学旅行は、1886年に東京師範学校（現在の筑波大学）が実施した千葉県銚子方面での「長途遠足」だったそうです。泊を伴う長距離の「遠足」という考えで、期間はなんと11泊12日に及ぶものだったそうです。内容は野外の軍事教練と学術研究等の2つが合わさったものであり、生徒は気象の調査や鉱物・貝類等の観察・採集、文化財・遺跡の見学などを行ったそうです。

翻って、現在の修学旅行は「旅行・集団宿泊的行事」として、学習指導要領における特別活動のうちの学校行事の一つに位置付けられています。その目標は「望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。」とあり、そのために「平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と記されています。

簡単に言うと、「行った場所でしか味わうことができない様々な体験を通して、友達と仲良くなったり、ルールを守ったり、広く世の中のことを考えたりしよう」ということです。

修学旅行は僕たちにとってとても貴重な思い出になりました。3日間を振り返ると、学年スローガンである「切磋琢磨」をもとに動く姿が多く見られ、企業別研修や震災の講話では今まで知らなかった事を多く学ぶことができました。また班活動の中では、仲間と協力しながら先を見通したり、体調を気にかけたりしながら行動することができました。

ただ、この3日間の中で学校生活での甘さがでたこともありました。これからの日常を高めることで、3年生として、自ら考え、判断し、行動していきたいです。 [3年生徒の代表]

人と防災未来センターでは、改めて地震の怖さを知りました。ここで学んだことを周りの人にも広めていきたいです。また、災害に遭遇した時にどのような行動をとればよいのか、自分で考え、判断し、行動できる力の大切さを今回の研修でも学ぶことができました。

バスの運転手さんや行った先でお世話になる人へ進んで挨拶したり、仲間と協力して活動したりすることによって学級の絆も深まりました。前期の班で活動する最後の行事でしたが、とても良い思い出になりました。 [2年生徒の代表]

上記は3年生、2年生の代表生徒の感想です。内容から、修学旅行や校外研修の目標が概ね達成できたと考えています。事実、引率した修学旅行では、コロナ対策を考えバスや食事会場では最小限の会話を生徒は心がけていました。震災経験者やSDGsの講話、企業別研修では熱心にメモをとり、学校ではできない学びに向かっていました。多くの生徒が、自分たちで作ったルールや社会のマナーを守ることで、互いに心地よい旅行になるように努めていました。そして、ディナークルーズや神戸班別研修、USJでは仲間との時間を心から楽しみ、たくさんの笑顔を見ることができました。

今回の成果と反省を踏まえ、これから来年度の修学旅行等について具体的な内容を検討していきます。また令和6年度の業者選定もしていきます。本校では、学校での学びを広げたり、深めたりできる機会にしたいと考えています。また学校でしか行うことができないような場所の選定や体験方法等の内容を考えていきます。そして、もっともっと生徒にルールも含め、内容を委ねたいと考えています。そのことが「自ら求め 考え 判断し 行動する力」の育成にもつながると考えています。

